

気象学的解釈は十分とは言えない。今後より多くの事例解析によって、3章で述べたような問題点が検討されることが望まれる。また今後、同位体組成を用いた降雪の水蒸気輸送過程の研究では、日本海側から太平洋側にわたる広域を対象として考えるべきであろう。その際、降雪粒子が形成された環境温度が、非常に重要な要素になると思われるので、結晶型の観測は不可欠であろう。

なお本研究は日本生命財団特別研究助成「水資源の保全に関する研究」(代表者・吉良竜夫)の一環として行われたものである。

### 文 献

- Fancy, L., L. Merlivat, G. Nief and E. Roth, 1963: The study of the formation of a hailstone by means of isotopic analysis, *J. Geophys. Res.*, **68**, 3841-3848.
- 藤吉康志, 小西啓之, 入川真理, 加藤喜久雄, 1982: 降雪の安定酸素同位体組成の変動について(I), 日本気象学会秋期大会講演予稿集, 336.
- 樋口敬二, 渡辺興亜, 加藤喜久雄, 梶川正弘, 1981:

秋田市における降雪の安定酸素同位体について, 日本気象学会秋期大会講演予稿集, 362.

———, 1982: 日本の降, 積雪の安定酸素同位体に関する研究, 昭和55, 56年度科学研究費成果報告書.

Isono, K., M. Komabayashi and T. Takahashi, 1966: A physical study of solid precipitation from convective clouds over the sea: Part I-Deutrium content of snow crystals with respect to crystal shapes and their relation to origins of water vapor of snowfall, *J. Meteor. Soc. Japan*, **44**, 178-184.

Kato, K., 1978: Factors controlling oxygen isotope composition of fallen snow in Antarctica, *Nature*, **272**, 46-48.

加藤喜久雄, 1979: 南極における降雪の酸素同位体組成, 南極資料, **67**, 124-135.

楠 宏他編, 1982: 南極の科学4, 氷と雪, 国立極地研究所, 49-60.

Tsunogai, S., K. Fukuda and S. Nakaya, 1975: A chemical study of snow formation in the winter-monsoon season: The contribution of aerosols and water vapor from the continent, *J. Meteor. Soc. Japan*, **53**, 203-213.

## 第24回理工学における同位元素研究発表会のお知らせ

関係諸学協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行い、各専門分野間の知識と技術の交通を図ろうとするものであります。会員各位におかれては奮ってご応募、ご参加下さることを希望いたします。

会 期: 昭和62年6月29日(月)~7月1日(火)

会 場: 国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2-3 文部省となり)

発表申込み: 所定の申込書(1件1通)によりお申し込み下さい。所定の申込書は下記あて請求して下さい。

〒113 東京都文京区本駒込2-28-45

日本アイソトープ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会

TEL. 03-946-7111 (代) 内線 261

発表申込締切: 昭和62年2月28日(土) 必着

講演要旨: 講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第、所定の原稿用紙をお送りします。口頭発表、ポスター発表とも1件原稿用紙1枚です。

講演要旨原稿締切: 昭和62年4月15日(水) 必着